



築50年以上が経過し、老朽化が進む東区役所

東区役所の移転計画

市長「今の状態ではできない」



市議会6月定例会は25日、本会議を再開し、10人が議案外質問をした。老朽化が進む東区役所の移転改修先として、市が愛知大車道キャンパス(東区筒井2)を計画していることについて、河村たかし市長は「東区の3分の2(の学区)が納得できないと言っている以上、できんわね」と答弁。現在地での建て替えも含めた3案に広げて検討する考えを明らかにした。佐藤夕子議員(減税)の質問に答えた。(西尾述志、福本英司、四方さつき)

現在地を含めた3案検討へ 白紙化求める署名受け答弁

東区役所は築50年以上が経過。市は愛知大側の提案を受け、車道キャンパスの土地と校舎を取得し、校舎を改修して新しい区役所にする計画を進めている。昨年度に校舎の耐震性などを調べ、本年度は基本構想を策定する予算を計上した。佐藤議員は、市が東区民に対して十分に説明しないまま、愛知大への移転改修計画を進めている上、校舎にアスベスト(石綿)が使われている点を伏せたことを問題視。校舎は現在、築

20年だが、設計・改修期間などを含めると「築30年の中古物件になる」と指摘し「白紙化も含めた住民説明会をするべきだ」とたたじた。区政協力委員長の有志が19日計画の白紙化を求め、区内9学区のうち、6学区の町内会長95筆の署名を市に提出したことも踏まえ、

河村市長は「今の状態ではできません」と答弁し、①現在地での建て替え②愛知大校舎を改修せず、更地から新築する③愛知大校舎を改修する、という3案で検討する考えを明らかにした。佐藤議員が区民203人に聞いたアンケートでは、①を望む人が61・1%で、②は22・2%③が8・4%だったという。市側は3案の費用を試算し、建築の専門家が検証・評価した意見を添えた上で、7月中旬に住民説明会を開くとした。アスベストは機械設備の一部に使われているが、建材での使用は不明で、現在、検体を採取して調べている。

市職員採用試験 適性検査導入を検討

市は25日、2025年度試験の導入も視野に入れていると明らかにした。適性検査は、多くの民間企業や他都市が採用試験で取り入れている。大村光子議員(減税)の質問に答えた。市によると、大卒程度試験の受験者数は13年度に3224人だったが、近年は2千人を割り込み、減少傾向にある。22年度以降、ブレゼンテーション型試験の新設や一部の試験日程の前倒しその他、特別な公務員試験対策を必要としない教養試験問題へ変更するなどした結果、23年度は3418人と増加した。

市側は「優秀な人材の安定確保には不断に試験制度を改善する必要がある」と説明し、適性検査の導入は

「人材を呼び込む効果が期待できる新しい取り組み」と述べた。国や地方自治体で公務員として働いた経験がある人材を呼び込む効果的手法も検討するという。大村議員は「多様な人材との出会いを広げ、市の将来の核となる職員の採用を実施してほしい」と要望した。